

第 29 回書籍リレー

福島県立郡山東高等学校
野球部顧問 長久保幸男

『致知』

これまで積み重ねてきた福島県高野連強化部主催の書籍リレーを拝読すると、多種多様な書籍が紹介されている。野球に関する技術や知識に関するもの、身体的パフォーマンス向上を目指すもの、他の競技から何かを学ぼうとするもの。他には企業人のノウハウや人生論を講じるものなどがあり、高野連に所属する先生方の貪欲な知識欲を垣間見ることができた。今回は、近年の福島県高野連の活動を振り返りつつ、読書および書籍の紹介について私見をまとめてみることにした。

平成 16 年度から福島県高野連による指導者講習会が開催されて現在に至るまで続いている。平成 17 年度の指導者講習会では宗像治前理事長より雑誌『致知』の紹介があった。以来『致知』と致知出版社が刊行する本を読むようになった。

『致知』を読むことで、それまでの自分にはなかった世界が広がり、読書の範囲が格段に広がった。そもそも読書とは何か。答えは一つではなく、読む人により異なってしかるべきである。野球を指導する上で必要な場合に読む。自分の知識を増やすために読む。いずれにしても、読書を通して自分が経験できないことに接することができ、遠い過去のことを学ぶことができる。自分の生活から得られる知識や経験はごく限られたもので、それを補ってくれるのが読書である。

我々は高校野球を通して生徒を育てている。授業を通して生徒を育てている。自分だけの力では到底足りない。どのような立場であっても指導する立場にある者は謙虚な姿勢で学び続けなければならない。その際、目前にいる生徒に対しどのような願いを込めるか、それが自らの読書に影響を与える。本の選定、本の読み方、本の活用の仕方など、目的に合った読書スタイルが求められる。

忙しい毎日で本を読む時間を確保するのは難しいが、それでも必ず余暇はある。例えば一日 1 ページでも読書に充てたい。簡単なことであるが一ヶ月続けることは難しく、一年間続けることは尚更である。平成 18 年度講師の鍵山先生の「凡事徹底」が過る。

『菜根譚』	たまたま開いたページを読む。最初から最後まで読む必要がない。空いた時間を活用できる書籍である。
『一日一言』	誰の本でもよい。短い文章を毎朝読む。一分間で読める。その日の励みになったり、きっかけになったりする。
『政治経済』	我々は高校の教科書を手に入れることができる。思いがけず時間ができた時に読む。世の中のしくみを端的に学ぶことができる。
『松原泰道講話集』	自分自身の力不足を感じた時に読む。疲れた時にもよい。
『修身教授録』	森信三先生。教育の根本を学ぶ。生徒に何を伝えるかを学ぶ。